



## 1998年度フレンドシップ事業「森と川から郷土を学ぶ」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村田, 文江, 鈴木, 明彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9273">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9273</a>

# 1998年度 フレンドシップ事業「森と川から郷土を学ぶ」

## 1. フレンドシップ事業について

文部省では、平成9年度から教員養成学部フレンドシップ事業等促進経費を計上しました。その趣旨は、教職を志す学生が、児童生徒とともに体験活動を行うことによって子ども理解を深め、実践的指導力の基礎を涵養することにあります。

## 2. 岩見沢校のフレンドシップ事業

岩見沢校は地方都市にある利点をいかして、教官や学生が市内のさまざまな団体・組織や市民活動に参加するなど、日ごろから地域との連携がなされています。また、附属学校をもたないなかで教育実践を推進するために、市内および近隣市町村の小中学校と研究協力校制度を設けています。

こうした岩見沢校の特色をいかし、昨年度の統一テーマ「森と川から郷土を学ぶ」を継続し、フィールドワークを中心とする次のような活動を実施しました。

### (1) 川のはたらきと人々の暮らし [実施期日 7月21日]

授業科目：社会科セミナー 受講生29名（担当教官 村田 文江）

実施場所：桂沢ダム・幾春別川「水辺の楽校」

参加児童：岩見沢市立朝日小学校児童19名

指導協力者：岩見沢河川事務所職員、三笠の湖・川・緑を愛する会会員

### (2) 岩見沢の地層と化石調べ [実施期日 8月6日]

授業科目：地学野外実験Ⅰ 受講生29名（担当教官 鈴木 明彦）

実施場所：幌向川中流域・朝日採石場跡

参加児童：郷土科学館友の会ジュニア会員28名

指導協力者：岩見沢郷土科学館長、同友の会会員

### (3) トネバツの森の野鳥一巣箱作りと巣箱かけ [実施期日：9月28日、9月27日]

授業科目：生物学実験ⅠB 受講生20名（担当教官 芳賀 卓）

実施場所：岩見沢郷土科学館、利根別原生林ウォーキングセンター、利根別自然休養林

参加児童：郷土科学館友の会ジュニア会員50名

指導協力者：岩見沢野鳥の会会員、岩見沢郷土科学館長および指導員

## 3. 成果と課題

紙面の都合によりそれぞれの事業の詳細は省略しますが、どの企画も子どもたちは楽しく学び、学生たちとも仲良く交流しました。学生は主として1、2年生であったため、最初は不安感やとまどいもありました。しかし、子どもたちののびのびとした姿や、子どもらしい見方や感じ方に新鮮な驚きをもったようです。教育実習の前に子どもたちと直に触れ合うこのような機会をもつことは、貴重な体験になるといえるでしょう。

本年度はフレンドシップ事業の2年目となり、今後いくつか検討すべき事柄ができました。たとえば、《岩見沢の地層と化石調べ》では、受講した学生から、「時間が足りなくて大変だった」、「足場が悪くて、小さい子供には危険だと思った」、「少し説明不足で、パンフレットの内容がむずかしい気がした」などの意見が寄せられました。特に野外における体験学習では、天候条件や安全面においても細心の注意が要求されることがわかりました。

11年度から新しいカリキュラムが発足します。フレンドシップ事業の有効活用のためにも、授業科目の位置づけ、実地方法や指導内容、協力校・組織への依頼などについても、今後さらに検討することが必要です。

(文責 村田文江 鈴木明彦)